

MJ

No.1031

オーディオ総合月刊誌
無線と実験
AUDIO TECHNOLOGY

2009
1



第27回 MJテクノロジー・ オブ・ザ・イヤー 57選

WE 252A, 300B シングルパワーアンプ
フォノイコライザーアンプ
MOS-FET DCパワーアンプ
WE型ボリュームエキスパンダー
6550 プッシュプル 80W パワーアンプ
小型スピーカーの設計と製作

デジタルオーディオ30年の歩み
MJズームアップ

■スピーカー部門優秀賞

ジンガリ TWENTY 1.12

2ウェイスピーカーシステム ¥2,730,000 ペア

小林 4点
柴崎 2点
井上 4点
角田 3点
MJ 1点

合計
14点



同社製品はオムニレイ・テクノロジーと呼ばれる木製ホーンの搭載が特徴だ。本機は32cm口径ウーファーとバックプレッシャー・タイプのドライバー+北米産イエローポプラ無垢材のウッドホーンで構成される中型2ウェイ機。2ウェイながら可聴帯域を確実にカバーし、92dB/W/mという高能率を確保して、佳き時代の米国製スピーカーを思い出させる躍動感のあるサウンドを聴かせてくれるのが好ましい。ヴォーカルやサックスなどの実在的な音像や低音楽器のエネルギー感をリアルに出しながら、反応の良い低音なのも好ましい。

(小林 貢)

■周辺機器部門優秀賞

アキュフェーズ DG-48

デジタル式音場補正イコライザー

¥787,500

小林 3点
柴崎 3点
井上 2点
角田 3点
MJ 3点

合計
14点



アキュフェーズのデジタル・ヴォイシング・イコライザーは、高度なDSPとFPGA技術により第3世代へと進化した。アナログ接続でも違和感のない再生を達成している。リスニングルームの音場補正を高精度で行い、スピーカー本来の実力を発揮させてくれる機器である。その操作は実に簡便にできており、効果はスピーカーからの直接音だけではなく、空間を大きく整えてくれる。さらにこの機器の使う楽しみは、愛聴盤をイコライジングして独自のサウンドが作れることもある。セッティングのメモリーを活用すれば音質比較も容易。

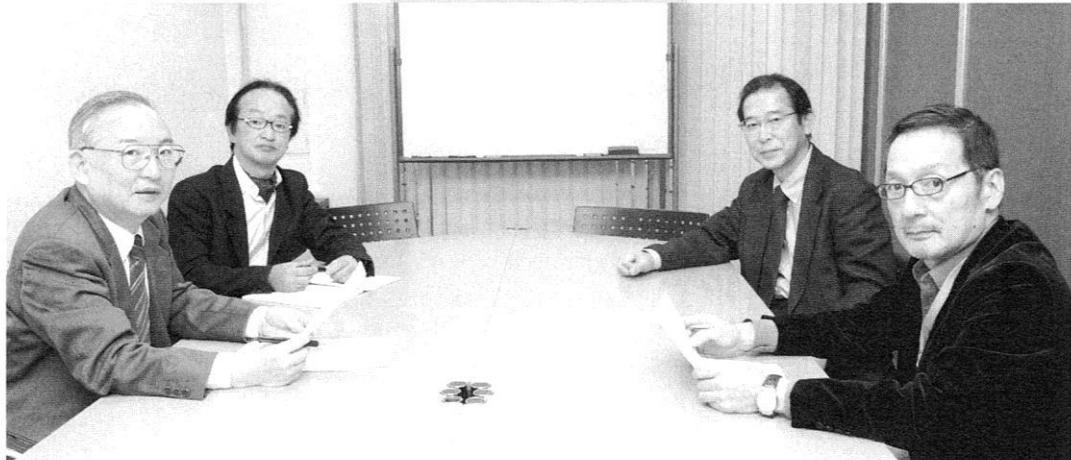
(角田郁雄)

第27回

MJテクノロジー・ オブ・ザ・イヤー

2008 MJ Technology of the Year

選考基準および寸評、得点表



受賞製品のどれ
を買っても後悔
しない

小林 貢
KOBAYASHI Mitsugu

本誌で取材してきた製品たちは法外と思える価格の製品はないが、近年の海外ブランドの高額化は留まる気配はない。数年前に8桁台のスピーカーが登場してから高額化は全ジャンルにおいて、昨年はアナログシステム、そして今年はパワーアンプまで8桁台の製品が登場してきた。世界的に不景気になりつつあるが、どこかでまだバブルが弾けない国があるのだろう。こうした国の大金持ちの需要を見込んだと思われる高額機が欧州圏のブランドから次々と生み出されている。そんな製品は我が国では需要がないのではと思えるのだが、購入可能な富裕層が一部に存在するのだろう。しかしアンプやスピーカーなどで、どこにどんなパーツを使えば何千万円というプライスになるのだろう、と疑問を抱くのは僕だけではないはずだ。アンプやスピーカーの製作者にユーザーが思うがまま注文をつけて製造を依頼したと

MJ誌が1年間に取材したオーディオ製品を対象に、技術的、音質的に優秀な機器を公正な採点で選出する「MJテクノロジー・オブ・ザ・イヤー」。1人当たりの持ち点を150点とし、さらにケーブルなどのアクセサリー類の持ち点を15点とした。その結果、カラーページと以下に示すような57機種の入賞機を選出した。最高得点は18点でこれをテクノロジー・オブ・ザ・イヤー賞とし、9点以上を入賞とした。またアクセサリーデ部分での最高得点は13点で、7機種を入賞とした。

しても、そこまで高価にはならないのではないかと思う。オーディオ機器は芸術品でも工芸品でもない。本来的には工業製品であるはずである。そう考えると8桁台の製品は工業生産の域に達していないがために高額になっているのであり、高額であってもその分だけクオリティが高まっているという保障はどこにもないと考えるべきだろう。少し話が横道に逸れたが今回本誌テクノロジー・オブ・ザ・イヤーに入賞した製品たちは、きわめて妥当な価格設定の製品が多く、その価格に見合った性能を有し、支払った対価だけの満足度が得られる製品ばかりといえる。その意味では受賞製品のどれを買っても後悔するとのない性能を身に付けているといえるだろう。



音質に 裏付けられた 技術を評価

柴崎 功
SHIBAZAKI Isao

最近は環境問題で鉛などの有害物質使用制限が厳しくなり、オーディオパーツの廃止品種が増えて、オーディオ機器の設計には大きな制約があるが、それにもめげず、2008年は飛躍的に音質が改善されたオーディオ機器の力作が増加した。特に国産アンプの音質向上は目覚ましく、プリメインアンプは、セパレートアンプの必要性を感じさせないほどクオリティの向上した製品が多くなった。プリアンプにはあまり突出した製品は見当たらなかったが、パワーアンプの音質向上は目覚ましい。これまでの「重量級にしなければパワフルな音が出ない」とか「ハイパワー・アンプは大味になりやすい」という既成概念を打ち破って、38.5kgという従来機よりも軽量化を実現しながら凄まじいドライブ能力を持ち、かつ繊細な表現力を兼ね備えたM-6000の登場には脱帽した。3極管特性の半導体を用いて真空管アンプ的な豊潤サウンドを実現したB-1aも印象深い。

デジタルオーディオ機器は、デバイスの性能向上と実装技術の向上で一段と音質が向上したが、特にSACDプレーヤーは、価格が1.5~2倍の既存製品並みのクオリティを備えた製品が多く、コストパフォーマンスが非常に向上した。

アナログ機器は、国産MCカートリッジの力作が相次いで登場したのが特徴で、チタンベースを採用したP-1Gの迫真サウンドには驚かされた。スピーカーでは特殊形状のマグネシウム振動板を用いたG2000の生きしい音場が印象的で、アクセサリー類では信号経路からハンドを追放し、ケーブルの存在を感じさせないバランスケーブルXLR-1.0PAが印象的であった。選考基準は、音質に裏付けられた有形無形の技術に対し価格を加味して評価するもので、高音質と好音質の両面から評価し、音に納得できない製品や高価な製品には厳しい評価となっている。



アナログの 進歩を 素直に喜びたい

井上千岳
INOUE Chitake

最近古い録音の復刻盤を聞くことが多い。ランバルとラスキースの「日本の旋律」やゲヴァントハウス四重奏団のモーツァルトなど、たとえモノーラルであったとしても音がいいのに驚いている。もちろん元の録音がよく、リマスターも成功しているということはあるだろう。しかしそれだけなら現代の録音の方がさらに優れているはずだ。そうではない音そのもののよさ、それは演奏そのものがいいからにはかならない。アナログ時代のほうが音がよかった、という人がいるのは、録音の優劣ではなく演奏自体がよかったからではないか。時ならぬアナログブームとも聞くが、そこを勘違いされてしまう。もっとも個人的には当時のレコードを探ってきて、現代の装置で聴いてみたくもある。

今回の選考でも、アナログ関連の製品が思いの外多かった。受賞したモデルはいずれもいい意味でのアナログの進歩を示すもので、そのこと自体は素直に喜びたい。一方でそのブームが妙な方向へ走り出さなければいいとも思っている。

アナログはひとまずおくとして、スピーカー、アンプ、CDプレーヤーのジャンルでも、着実に進歩を遂げている製品が少なくない。華やかな話題になったものこそ決して多くはないが、オーディオ技術の洗練を感じさせる完成度の高さが際立っている。特にスピーカーではジンガリに注目したい。ホーンの特質を生かした高能率な設計は、感度の意味というものを再認識させるものだし、その再現性はいつも磨かれて伸びやかなものとなった。またアキュフェーズのM-6000は、高出力ハイエンド・パワーアンプの定番としづらくその座を譲らないだろう。そして10年ぶりの2チャンネル専用SACDプレーヤー、ラックスマンのD-08も期待が大きい。

[セパレートアンプ部門]	型番	内容	小林	柴崎	井上	角田	MJ	合計
アキュフェーズ	M-6000	モノーラルパワーアンプ	4	4	4	3	3	18
デジタルドメイン	B-1a	SITステレオパワーアンプ	3	3	3	3	3	15
ラックスマン	M-600A	A級動作パワーアンプ	3	2	3	3	3	14
アキュフェーズ	C-2110	コントロールアンプ	2	3	3	3	2	13
ラックスマン	C-600f	ラインコントロールアンプ	3	2	3	2	2	12
エソテリック	C-03	コントロールアンプ	4	2	1	2	2	11
アキュフェーズ	P-4100	ステレオパワーアンプ	2	2	3	2	2	11
QUAD	99	マイコン制御プリアンプ	3	1	2	2	1	9
QUAD	909	140W×2パワーアンプ	2	2	2	2	1	9
ニッシャ	YN2002EXP	モノーラルパワーアンプ			2		1	3

[プリメインアンプ部門]								
マランツ	PM-11S2	プリメインアンプ	3	3	3	3	3	15
アキュフェーズ	E-250	プリメインアンプ	2	3	2	3	2	12
デノン	PMA-SX	プリメインアンプ	3	3	2	2	2	12
ヤマハ	A-S2000	バランス構成プリメインアンプ	3	1	3	2	2	11
マランツ	PM8003	プリメインアンプ	2	2	2	2	2	10

[デジタルプレーヤー部門]								
ラックスマン	D-08	SACDプレーヤー	4	3	4	3	3	17
アキュフェーズ	DP-600	SACDプレーヤー	3	4	3	3	3	16
マランツ	SA-15S2	SACDプレーヤー	3	4	2	2	3	14
デノン	DCD-SX	SACDプレーヤー	3	2	3	2	2	12
リン	Sneaky Music DS	ネットワークオーディオシステム	2	2	2	3	3	12
コード	CODA	CDトランスポート	2	1	3	3	1	10
マランツ	SA8003	SACDプレーヤー	1	3	2	2	2	10
ヤマハ	CD-S2000	SACDプレーヤー	3	1	3	1	2	10
デジタルドメイン	D-1a	D/Aコンバーター	2	1	2	2	2	9
アキュフェーズ	DP-400	CDプレーヤー	2	2	1	2	1	8
ワディア	Wadia581i	SACDプレーヤー	1	2	1	2	1	7
バイオニア	PD-D9	SACDプレーヤー	1	2	1	1	1	6
オンキヨー	APX-2	オーディオコンピューター		2		1	1	4
ワディア	170iTransport	iPod用デジタル出力アダプター	2			1	1	4
山本音響工芸	YDA-01	D/Aコンバーター	1	1		1	1	4
デジタルドメイン	2930DSP-4	マルチディスクプレーヤー	1	1			1	3
ソウルノート	cd 1	電源別体型CDプレーヤー		1				1

[真空管アンプ部門]								
オクターブ	V80	真空管プリメインアンプ	3	4	3	3	2	15
オーディオスペース	Reference Three	805シングル・モノーラルパワーアンプ	3	2	3	2	2	12
オーディオスペース	Reference-3.1 KT88	KT88ブッシュフルパワーアンプ	2	2	2	2	3	11
ラックスマン	SQ-38u	プリメインアンプ	2	2	3	2	2	11
トライオード	TRV-88SE	KT88ブッシュフルパワーアンプ	2	2	2	1	2	9
山本音響工芸	A-09S	300Bシングルパワーアンプ	2	1	2	2	2	9
マッキントッシュ	MC275	KT88ブッシュフルパワーアンプ		2		2	2	6
ロジャース	E40a	真空管プリメインアンプ	1	1	1	1	1	5
エヌデザイン	model M-3BC	300Bシングルパワーアンプ		1	1		2	4
カイン	VENUS VP-100i	KT88ブッシュフルパワーアンプ		1		1	1	3
エヌデザイン	model M-A3S	2A3-EHシングルプリメインアンプ			1	1	1	2
ハニワ	HAMP30	KT88ブッシュフルパワーアンプ		1			1	2

[アナログ機器部門]								
アキュフェーズ	C-27	フォノイコライザーアンプ	4	3	4	3	3	17
フェーズテック	P-1G	MCカートリッジ	3	4	4	4	2	17
マイソニックラボ	Ultra Eminent BC	MCカートリッジ	4	2	4	2	2	14
フェーズテック	EA-5	フォノイコライザーアンプ	2	3	3	2	2	12
プロジェクト	RPM10	アナログプレーヤー	3	3	2	2	2	12
シェルター	Model Harmony	MCカートリッジ	3	3	2	2	2	12
オーディオテクニカ	AT33EV	MCカートリッジ	2	2	3	2	2	11
オーディオテクニカ	AT-OC9ML/II	MCカートリッジ	2	1	3	1	1	8
ミレニア	LOC-2J	フォノイコライザーアンプ					1	1
アドバンストアナログ	MG-1	リニアトラッキングアーム					2	2

白抜き文字はテクノロジー・オブ・ザ・イヤー賞と部門優秀賞、グレーは9点以上の入賞

技術と音質を
兼ね備えた製品
を高く評価

角田郁雄
TSUNODA Ikuo



今年の新製品の評価対象の機器を考えると、昨年同様スピーカーに大きな特徴があったと思う。近年の技術傾向はやはりユニットにあり、新技術を披露したり、またすでに完成しているが見直しを行いアップグレードしたユニット群が多く見られた。国産では目の覚めるような高速応答性と高解像度特性を

[スピーカーシステム部門]	型番	内容	小林	柴崎	井上	角田	MJ	合計
ジンガリ	TWENTY 1.12	2 ウエイスピーカーシステム	4	2	4	3	1	14
フォステクス	G2000	4 ウエイスピーカーシステム	2	4	2	2	3	13
ピエガ	TC30X	3 ウエイスピーカーシステム	3	3	2	3	2	13
フォーカル	ELECTRA 1027S	3 ウエイスピーカーシステム	2	3	2	4	2	13
ライドーアコースティック	Ayra C-1	2 ウエイスピーカーシステム	3	1	3	4	2	13
ピクター	SX-M3	2 ウエイスピーカーシステム	2	2	3	2	2	11
ピクター	SX-M7	3 ウエイスピーカーシステム	2	2	2	2	2	10
パイオニア	S-81	3 ウエイスピーカーシステム	2	2	2	2	2	10
フォステクス	NF-4A	パワーアンプ内蔵2 ウエイスピーカーシステム	2	2	1	2	2	9
ジンガリ	TWENTY 2.08	2 ウエイスピーカーシステム	2	1	2	3	1	9
QUAD	22L2	3 ウエイスピーカーシステム	2	2	2	2	1	9
ロジャース	LS3/5A	2 ウエイスピーカーシステム	1	1	2	1	1	6
カバス	Karissima	4 ウエイスピーカーシステム	1	1	1	1	1	5
パイオニア	PE-101A	10cm フルレンジスピーカーユニット	2	1			2	5
ダリ	Helicon 400MK2 LE	3 ウエイスピーカーシステム	1	1	1	1	1	5
カバス	La Sphire	4 ウエイスピーカーシステム			1	1	1	4
チャリオ	SILVERETTE 200	2 ウエイスピーカーシステム				1	1	2

[周辺機器部門]								
アキュフェーズ	DG-48	デジタル処理による音場補正イコライザー	3	3	2	3	3	14
ウルトラゾーン	PRO2500	ヘッドフォン	3	1	3	1	1	9
AKG	K701	ヘッドフォン	1	2	2	2	2	9
スタックス	SR-404	コンデンサー型ヘッドフォン	1	2	2	2	2	9
スタックス	S4070	コンデンサー型ヘッドフォン	1	2	2	1	6	
タスカム	DR-1	マイク一体型デジタルレコーダー	2	1		1	2	6
スタックス	SR-007A	コンデンサー型ヘッドフォン	2	1	2	1	6	
ヤマハ	POCKETRAK CX	マイク一体型デジタルレコーダー			2	3	5	
ソニー	PCM-D50	マイク一体型デジタルレコーダー		1	2	2	5	
オリンパス	LS-10	マイク一体型デジタルレコーダー		1	1	2	4	
コルグ	MR-1	マイク一体型デジタルレコーダー	1	1	1	1	4	
ソニー	PFR-V1	耳掛け型スピーカー			1		1	2
サンヨー	ICR-PS1000M	マイク一体型デジタルレコーダー					1	1
ズーム	H2	マイク一体型デジタルレコーダー					1	1
ズーム	H4	マイク一体型デジタルレコーダー					1	1
合計			150	150	150	150	150	750

白抜き文字は部門優秀賞、グレーは9点以上の入賞

[アクセサリー部門]								
ゾノトーン	8NTW-8080 Prestage	フォノケーブル	3	2	3	3	2	13
アコースティックリヴァイブ	XLR-1.0PA	ラインケーブル	3	3	2	3	2	13
ゾノトーン	7NPS-5050 Grandio	電源ケーブル	2	2	3	2	2	11
ゾノトーン	7NSP-Grandio07	スピーカーケーブル	2	2	2	2	1	9
ゾノトーン	7NAC-Grandio07	ラインケーブル	2	1	2	2	1	8
タオツック	TITE-25MF	インシュレーター	1	1	2	1	2	7
オヤイデ	HS-CF	ヘッドシェル	1	2	1	1	2	7
フィデリックス	Polaris-α	小型音圧計		2			1	3
デジタルドメイン	R-1s, R-2s	ラインケーブル	1			1	1	3
山本音響工芸	MGB-2	インシュレーター					1	1
合計			15	15	15	15	15	75

白抜き文字は部門優秀賞、グレーは7点以上の入賞

持つフォステクスG2000はその代表で、高く評価した。海外製品ではリボントゥイーターを搭載したピエガTC30X、同じくリボントゥイーターを搭載し、まったく新しい発想でコーンユニットを見直したライドーAyra C-1は、音楽のベースとなるエアーとアンビエンスを十分に表現し、特徴を生かしたサウンドを創り出した点を評価のポイントとした。またイタリアのジンガリが新モデルとして独自のホーンとコンプレッションドライバーとの組み合わせによるエネルギー感たっぷりの音楽を聴かせ、生きた音楽を感じさせた点を高く評価した。

アンプ、デジタル機器では、エントリーモデルからハイエンドモデルまでデザインをほぼ統一させた

アキュフェーズとマランツに魅力を感じることができた。周辺機器ではアキュフェーズのDG-48が音場補正ばかりではなくイコライジングにより今後のオーディオの楽しみの枠を広げてくれるようと思え、その技術を高く評価した。アナログ周辺機器ではカートリッジ技術においてフェーズテックP-1G、マイソニックラボUltra Eminent Bcに甲乙付けがたい高い設計思想を感じ取った。アキュフェーズC-27ウォノイコライザーにも斬新なテクノロジーを感じ、一方でアナログにニューカマーを迎えようと低価格でありながら高品位な音質を達成したフェーズテックEA-5も評価したい。コストパフォーマンスの良さも目にとまる1年間の機器取材であった。

を高い技術によって達成しており、MJではそれらを高く評価しているのだ。

当然ながら、優れた音質とは単に特性がよいというレベルを超えて、音楽の感動をもたらさなければならない。

今回は点数表にはないが、協議の結果、「クラフト功労賞」を、スピーカー自作ファンに好材料を提供し続けている六本木工学研究所に贈ることを決定した。

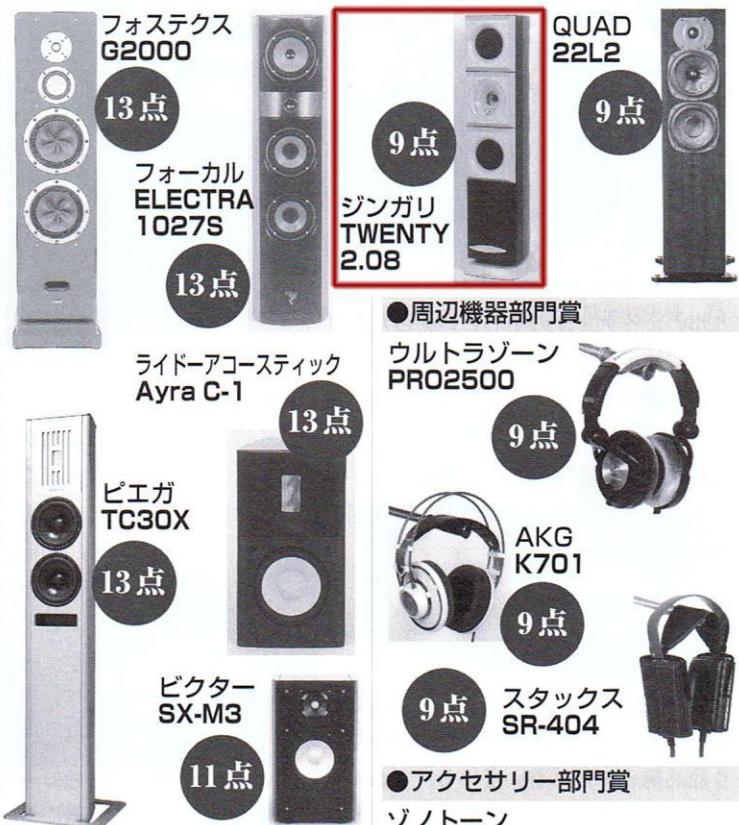
●真空管アンプ部門賞



●アナログ機器部門賞



●スピーカー部門賞



●周辺機器部門賞



●アクセサリー部門賞

